

「晴雨計・その後」⑪

「事実は小説より…」 3

平山征夫

いよいよ天皇・皇后両陛下のお話をしよう。知事任期を四月残すだけとなった二〇一六年六月、新潟県への行幸が漸く実現した。これだけ行幸に時間が必要だったのに、その年の十月（私の知事任期の前日）に発生した中越大地震の激励のため、翌年行幸を頂くことになるのだが・・・当初二泊三日で佐渡にも御渡り頂き、朱鷺をご覧いただく日程を組んだが、手術後の経過順調とはいえ大事を取って佐渡は諦め、その分中越地区を加えることになり、私の出身

地柏崎もご視察頂くことになった。五〇〇年の昔から山奥にひっそり伝わる優雅な綾子舞を守る中学生を激励頂いたりした後の柏崎市内での昼食会となった。皇后陛下から「知事さん、この地方にはどんな方言がありますか」とのご質問。「代表的なのが『じよんのび』と『ばらこくたい』です。じよんのびは寿命が延びる、あるいは丈、すなわち背中が伸びるの意味ともいわれ、温泉などに入ってゆったりした時などに『あー！じよんのび、じよんのび』と繰り返して言います」。次に『ばらこくたい』をご説明しようと思った途端駄洒落病が出た。「新潟では数年後に二巡目

国体の開催します。その時には大きなバラの花をデザインして愛称を『おおばらこくたい』にしようかと・・・、ここまで話すと周りの本県関係者がくすくす笑い出してしまった。皇后陛下はすぐに察知され「知事さん、また何か面白いことを思いつかれたのですか」。そこで『ばらこくたい』の本当の意味を説明申上げた処「面白い言葉ですね。じよんのびは感じが良くわかりますね」と仰られた。次に皇后陛下から「ご出身地とのことです。柏崎の自慢は何ですか」とのご質問。そこで「柏崎には江戸時代小千谷縮など縮布を上方に売る商人の町として

併せて情報や文化も運んできました。そのため一〇万人弱の人口の街なのに、地元新聞がいくつもあるうえ、商人たちが集めた素晴らしいコレクションがあります。コレクション・ビレッジで今柏崎は売り出しています」と概論を申上げ「岩下庄司の玩具コレクション“痴娯の家”、花田屋・吉田正太郎の文明開化ものを集めた“黒船館”、松田政秀の“藍民芸館”などがあります。またとんち教室で有名な柔道家・石黒敬七さんの雑多なコレクション“トンチン館”もあります。でもその館に入ったころには息子の石黒敬章さんが書いた“この父のコレクションの半分は勝手に持って帰ったり、

盗んできたりしたものです」と言う説明書きが架かっています。

息子さんに言わせると天然ボケのような敬七さんは、例えば茶碗など自分の気に入ったものがあるとな人の所有物でも握ったから離さず、そのまま帰ろうとするので、つい”暫くお貸ししておきます“ということになる。コレクシヨンの半分はこうして集まった物であるというわけです”。

この説明が終わるや否や隣の県議会議長で同じく柏崎出身のSさんが言った。「岩下さんのコレクシヨンの方がもっと盗ってきた物が多いよ」。このままでは柏崎のコレクシヨンの信用が疑われかねないと思い、話題を変

えることにした。「今、お話され

たS議長さんはカメラの腕は玄人はだし、写真集を何冊も出されていますが、同時に珍しいカメラのコレクターでも有名です」と私。すると皇后陛下から「どんな珍しいカメラをお持ちですか」とのご質問。S議長、嬉しそうに自慢のカメラの2と3を説明された。その説明が終わるタイミングピシャリで天皇陛下が仰った。「それも盗んできた物ですか?」。これには一同大爆笑した。皇后陛下も笑われた。

昼食会終了後、部屋の外で待機していた宮内庁のお付の役人さんからは、県の担当者に「何があったのか」と繰り返し問い合わせがあったそう。こんなこ

とは珍しいのだそうだ。

この行幸の最後にもう一つオチが待っていた。新幹線で東京に還幸される両陛下を長岡駅に見送りにゆき、貴賓室で御挨拶申し上げた。この場合はご苦労様と言う趣旨で両陛下が知事、議長、駅長の三人をお呼びになりお礼の意味のお茶を振る舞われるのだ。「ご行幸頂きましたこと、県民を代表して御礼申し上げます。御戻りになられてもお疲れが出ませんようごゆっくりされて下さい」と代表して私が申し上げますと、にこっとされて皇后陛下が仰られた。「知事さん! じよんのび、じよんのびです。ね!」両陛下には一本取られた行幸だった。

「少しは品を取り戻せたかな」と思いつつこの稿を終えることとしよう。

(平成二十九年八月十日)